

事業名 公園で遊ぼう

〈拠点〉緑児童館

対 象 乳幼児～大人

事業内容

毎月1回、公営団地に隣接した公園での遊び場づくりを行っています。2008年から児童館が単独で遊び場づくりをおこなってきたが、事業を楽しみにしている子どもも増えてきましたが、児童館だけでは遊び場が発展していきませんでした。やはり、発展させていくためには地域の方との協働が必要不可欠であるため、2016年度から公営団地の自治会長さんをはじめ、住民の方々と一緒に事業をすすめています。通常の「公園で遊ぼう」の他、子どもと大人と一緒に関われる流しそうめんやごはん会などを年に数回おこなっています。また、「公園で遊ぼう」内でお茶コーナーや折り紙コーナーなど、大人が関わりやすい空間を設けました。

事業のポイント

- ・子どもたちが自由に過ごせ、のびのびと遊べる環境の確保
- ・地域の子どもと大人との顔の見える関係づくり
- ・地域課題の共有
- ・地域のコミュニティの活性化
- ・子どもに対して「親が面倒見ればよい」ではなく、「地域全体で子どもを見守っていこう」という意識

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

子ども

- ・自分の内面を見つめる力
- ・ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・自分の考えや意思を伝える力
- ・多様性を尊重する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力

大人

- ・子どもの育ちを理解する力
- ・子どもの育ちを理解する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力

エピソード

「子どもの自ら育つ力を信じる」

あるとき、高学年の小学生が砂場で山を作っていました。最初は山を作るために掘っていましたが、だんだん楽しくなってきたのか「もっと深くして落とし穴にする。」とさらに下に掘っていきました。ついに石のような固いもの当たって下に掘れなくなってしまったのでひとまず中断しました。「どうしようかな。」としばらく考えたあと、今度は横に掘り始めました。そばにいた子もそれをみて穴を掘り始めます。すると、横に掘り始めた子が「こっちに掘ってー。穴同士つなげようぜ。」とお互いの穴に向かって掘りはじめトンネルが出来ました。

子どもたちにとってはやってみたいこと全てが遊びです。そして遊びはどんどん変化させることができます。やってみたいことがあっても「どうせ〇〇だから」とか「だって〇〇だもん」とやろうとしない子どもも少なくありません。「公園で遊ぼう」で何かしなければいけないことは一つもありません。何をするのも自由です。だから、山作りをしてもいいし、途中から穴掘りに変わっても、トンネルづくりになってもいいのです。

子どもは本来、遊びながら自ら育つ力を持っています。この事業ではその力を信じ、禁止事項をできるだけなくし、子どもたちが自由にやってみたいことに取り組みめるような環境を整えています。

「地域で子どもたちを見守るかわりをつくる」

今年度から地域の方たちと関わりを持てるように、折り紙コーナーとお茶コーナーを設けました。

近所に折り紙の上手な方がおられたのでお誘いすると「私たちにできることあれば」と来てくれました。今では毎月のように子どもたちと折り紙をしてくれています。折り紙コーナーを設けてから数か月後、子どもが「今日はこの本の折り紙をおばあちゃんに教えてもらおう。」と折り紙と本を持って来ました。折り紙のおばあちゃんたちがくると「これは難しそうだね。」と言いながらも一緒に遊んでくださいました。

また、お茶コーナーでは、いつも遊びに来ている外国籍の親子がいたのですが、なかなか話しかける機会がありませんでした。お茶を持っていくと受け取られ、「いつもありがとう。」と言って子どもたちの遊びを笑顔で見守ってくれていました。

現在、折り紙やお茶というコミュニケーションツールによって今まで関われなかった方とも関わるきっかけになっています。今まで子どもと関わりがなかっただけで、地域の方が子どものことを思っているのをお話するたびに感じています。地域の子どもと大人が繋がっていくことで、地域全体で子どもたちを見守っていく形ができていくのではないかと思います。